

コウノトリから教えてもらったこと

愛と平和を語ります



2025年10月

橋爪法一（ほーせのとちゃ）



水田に3きょうだい仲良く 国の特別天然
記念物コウノトリ 道南のせたな町に飛来
新潟県から



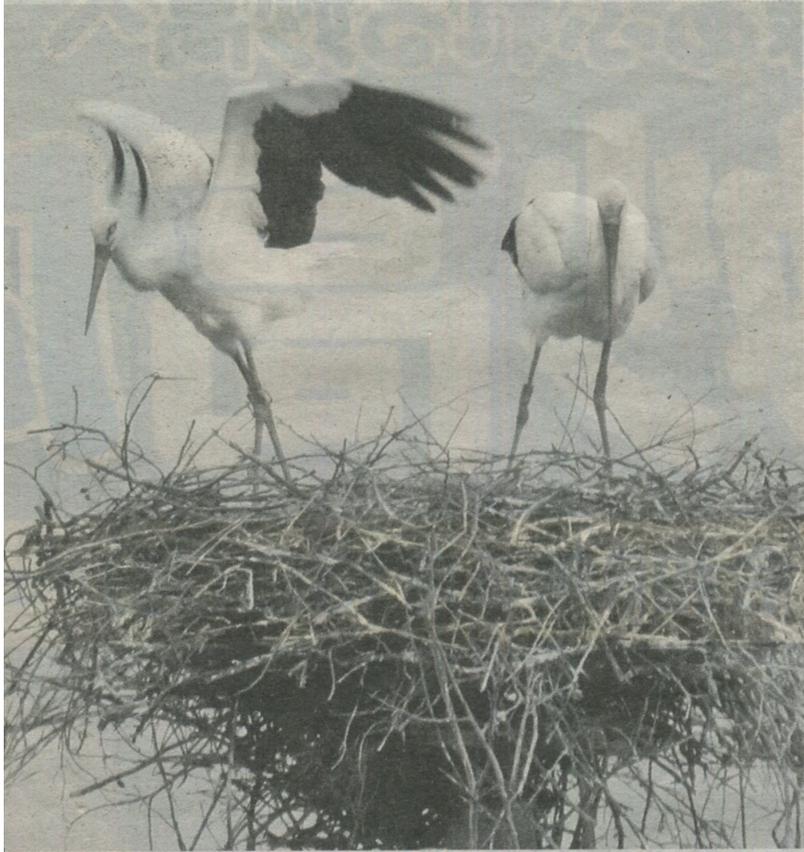
10月2日撮影



10月6日撮影

巣で抱卵や餌運びなどを代わるコウノトリのつがい
(6日午後2時40分ごろ、橋爪法一さん撮影)

上越市 全国で「最北」



コウノトリのひな誕生

上越市内で6日、国の特別天然記念物「コウノトリ」のひなが誕生したことが分かった。見守ってきた人らは喜びに沸いている。
同日午後2時30分ごろ、営巣や抱卵を見守ってきた

給餌の様子確認

関係者喜びの声

橋爪法一さん(74)は、コウノトリのつがいがカエルや魚を口から吐き出す様子を動画撮影。その動画を兵庫県立コウノトリの郷公園(豊岡市)の研究員に送り、孵(ふ)化したひなに餌を与えている状況と確認した

20年4月に豊岡で誕生したものと確認されているという。「最初の場所から巣が移り、4月2日に抱卵を確認してから、待ちに待った誕生。コウノトリがこの上越の地を選んでくれたことがうれしい」と喜び、「トキとコウノトリのひながかえった、全国で初めての県になる」と、西方の特別天然記念物が生息することを大きく受け止めている。
同公園の職員は観察の留意点を示し、「生活や作業をしている方以外、近寄って刺激になることは遠慮いただきたい。観察する場合は150cm程度は離れてほしい」と話している。

コウノトリとの初めての出会いから今日まで①

◎2019年8月17日、吉川区赤沢などに飛来

2018年4月19日生まれ、6月23日に巣立ったオス(個体番号201?)

◎2020年8月13日、吉川区下中条などに飛来

前年と同じコウノトリのオス

※上越市には2011年9月9日、和田
地区に飛来した記録あり

◎2021年から23年まで毎年夏か
ら冬を中心に次々飛来。多い
ときは7羽も。飛来地は吉川、



大潟、柿崎、頸城、浦川原、大島、和田など広がる

コウノトリとの初めての出会いから今日まで②

◎2024年3月、吉川区で営巣。

5月6日からヒナ4羽誕生。

7月13日、14日、16日に巣立つ

◎2025年1月26日、吉川区の親鳥
の交尾確認。3月6日抱卵開始か。

4月3日、ヒナ3羽誕生。6月10日、11日、13日と巣立ち。

◎2025年3月、三和区でも営巣。3月31日交尾確認。

4月25日抱卵開始。5月29日、ヒナ1羽誕生。

7月28日に巣立つ。



コウノトリについての豆知識…その1

◎日本に住む鳥の中では最大級の大きさ。嘴から尾まで1羽強。

翼を広げると約2羽。体重約5kg。肉食系(カエル、小魚、昆虫などの小動物を主食)。嘴は黒、足は暗赤色。目の周りは赤い。羽は白、先っぽは黒。時速40～60キロ、休憩なしで

300キロ飛ぶ。風切り羽は左右33枚ずつ

◎分布域は東アジア。総数(推定)で

2000から3000羽。絶滅危惧種。特別天

然記念物。1971年兵庫県豊岡市にいた鳥

を最後に在来種が絶滅。旧ソ連からの導入で復活目指す。



コウノトリについての豆知識…その2

- ◎コウノトリはヒナの時鳴くが、大きくなるに従い鳴かなくなる。そのかわり、くちばしをたたいて音を立て、通信手段にする。これを**クラッタリング**と呼ぶ。クラッタリングの種類は、**挨拶、求愛、満足、縄張り宣言、威嚇**のほぼ5つ。
- ◎足環は個体を区別する名前。2年ほど前までは黒、黄、赤、青、緑の五色の足環だったが、いまはすべて数字となっている。
- ◎子育てまでの過程。
巣作り、交尾、産卵・抱卵、ふ化、巣立ちと続く。産卵からふ化まで約1か月、ふ化から巣立ちまで60日から70日くらい。
食事量はヒナは1日当たり1キ_ロ、親は500_{グラム}ほど。

2025年のコウノトリ観察について

◎初めてコウノトリの交尾を見た。

交尾から巣立ちまでの流れ全体を見ることができた。

◎肉食系だが、今年はウシガエル、ザリガニを食べる場面も。

フナ、アマガエル、ヘビ、ドジョウは今年も食べていた。

◎コウノトリ同士の激しい争いを目の当たりに。

◎同じ親鳥でも昨年と今年で子育てに違いが見えた。

昨年は4羽、今年は3羽。訓練の場は農道、水のある田んぼ

◎吉川区だけでなく、三和区でも営巣、繁殖。

3羽のヒナの場合と1羽のヒナの場合、

p09 ヒナ誕生から巣立ちまで、微妙に違った展開に

吉川区で営巣したペアとその子どもたち



親鳥オス J0287 2020年4月9日 兵庫県豊岡市生まれ(354)

親鳥メス J0250 2019年4月30日 兵庫県豊岡市生まれ

(2024年5月6日生まれの子どもたち)

J0792メス、J0793オス、J0794オス(死亡)、J0795メス

(2025年4月3日生まれの子どもたち)

J0843オス、J0844オス、J0845メス

三和区で営巣したペアとその子どもたち

親鳥オス J0239 2019年4月19日 京都府京丹後市生まれ(331)

親鳥メス J0482 2022年5月8日 鳥取県八頭町生まれ(406)

(2025年5月29日生まれの子ども)

J0944(メス)

p10



吉川、三和のコウノトリ観察から見えてきたもの①

①雪の日も雨の日も風の日も頑張る姿。今年は昨年よりもひと月早い産卵(3月1日頃)だった。雪の降る日も卵を温めた。雨や雪が降れば傘になり、風が吹けば一人風に向かって立つ。



吉川、三和のコウノトリ観察から見えてきたもの②

②武器なきたたかい。コウノトリ同士の激しいたたかいが繰り返された。とくに抱卵の時期。たたかいの中心はクラッタリング、そして、体当たり寸前の威嚇。たたかいでは武器を持たない。人間も学ぶべきだ。菅原文太さんの言葉を思い出した。



菅原文太さんの遺言

(2014年11月1日、那覇市)

政治の役割は2つある。1つは国民を飢えさせないこと。安全な食べ物を食べさせること。もう一つは、これは最も大事です、絶対に戦争をしないこと。

吉川、三和のコウノトリ観察から見えてきたもの③

③母の強い愛。抱卵もエサ運びもオス、メス交代でやるのが基本だが、巣立ちの頃からは、メス(母親)はヒナのことを心配で、オス以上にそばにいた。母の愛を強く感じた。

左:吉川のメスとヒナたち

右:三和のメスとヒナ



吉川、三和のコウノトリ観察から見えてきたもの④

④コウノトリと共生できる環境こそ求められている。コウノトリ絶滅の歴史から学び、有機農業、環境保全型農業を深化させ、広めることが大切。



(番外編)コウノトリの特別授業を終えて



道徳 コウノトリの授業 振り返り

過去の自分を振り返ってみてみたこと、お話を聞いて分かったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたくなったこと、今までの自分と授業を受けての自分を比べてどうなったか、今後の自分はどうしたいか などを書いてね。



コウノトリは「幸せを運ぶ鳥」と言われているけれど、実際に吉川に来てくれたことで、地域PRにもつながり、農薬を使わないようにしようと、土地と人に幸せをくれる存在だと分かった。今回の授業を通じて、コウノトリへの関心が深まり、大きさや威嚇の方法、いまどこらへんにいるのかなど知れてよかった。私は子どもへの親の愛が純粹で素敵だなと思った。コウノトリはこれからもまだ吉川にすむと願っているのので、私もコウノトリがすみやすい環境づくりに少しでも協力していきたい。

コウノトリに興味がありました。私もコウノトリグッズを買ったり、売ってみたいです。今度はコウノトリと共に吉川に生きてみたいです。コウノトリを大切にしよう！
レッツ エンジョイ コウノトリ！

幸せを運ぶ鳥が上越にいるのはとても誇らしいことだし、そして、このままコウノトリがいる暮らしを守れるよう、環境破壊や汚染をしないよう、心がけ、生きていきたいです。

吉川小学校4年生の観察記録から学んだこと。

- ①吉川区にいるコウノトリを一番見かけたのは冬だった。
- ②コウノトリをよく見かけるエリアではシジミやヨシノボリなどがたくさんいる。



終わりに

- ①コウノトリは“幸せを運ぶ鳥”であり、絶滅危惧種。安全、安心な食料生産環境があつてこそ、生きられる。有機、環境保全型農業の推進を!
- ②コウノトリは地域の宝。コウノトリの郷づくりは地域づくり、観光振興の目玉となりうる。みんなで大切に育てましょう。

